

第44回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成30年5月28日（月） 13:30～15:15

○会 場 入善まちなか交流施設うるおい館 2階 イベントホール

○出席者

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ・大野 久芳 黒部市長 | ・芝田 聡 富山県農林水産部長 |
| ・笹島 春人 入善町長 | ・江幡 光博 富山県土木部次長 |
| ・笹原 靖直 朝日町長 | ・阿黒 克俊 関西電力(株)北陸電力部長 |
| ・梅木 洋一 富山森林管理署長 | ・伊藤 和久 北陸地方整備局河川部長 |
| ・長坂 雄一 富山県 | (座長) |
| 生活環境文化部次長 | |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)電力流通事業本部北陸電力部

●議 事

- (1) 黒部川河口付近海域における植物プランクトンの生物相変化要因調査結果（平成29年度）について
- (2) 平成30年度連携排砂計画（案）について
- (3) 平成30年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について
- (4) 平成30年度大粒径土砂の移動状況調査について
- (5) 第48回黒部川ダム排砂評価委員会評価について
- (6) 平成30年連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応について

●協議会の結果

□平成30年度連携排砂計画、平成30年度連携排砂に伴う環境調査計画については、了承する。

□連携排砂実施にあたっては、今回出された意見を踏まえて、適切に実施されたい。

(1) 黒部川河口付近海域における植物プランクトンの生物相変化要因調査結果(平成29年度)について

(2) 平成30年度連携排砂計画(案)について

(3) 平成30年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について

(4) 平成30年度大粒径土砂の移動状況調査について

(5) 第48回黒部川ダム排砂評価委員会評価について

座 長

それでは、これまで報告のありました議題につきまして、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

どうぞ。

A 委員

前回の土砂管理協議会でも少しお話をさせていただいたわけですが、平成30年度は2回に分けて排砂を実施する予定であるということですが、前回、できれば1回目の排砂後に調査を行った上で、その後の状況によって2回目を検討していただくことはできないかということを申し上げたと思っております。そのことについてどのような検討がなされたのかということをお聞かせいただければと思います。

座 長

事務局、お願いします。

事務局

今ほどのご意見に対しましてですが、環境調査計画案、資料-2をごらんいただけますか。環境調査につきましては、資料-2の3ページに、定期調査<5月>とあります。それから横線が引っ張ってあるところや、黒い丸が点々としているところがあって、排砂・通砂1日後とか抑制策中とか、定期調査<9月>、定期調査<11月>と書いてありますけれども、この真ん中あたりで横線が引っ張ってあるところが、基本的には排砂をやっているときに調査する項目であります。排砂を仮に2回行うということであれば、この調査は

2回行っていくというふうに見ていただければよろしいかと思います。

ただ、今ほどのお話の中で、測量についてなんですけども、これについては準備のことや、今シミュレーションでいろいろ検討しているわけなんですけど、シミュレーションの精度もそれなりのものが確保されているということで、1回目が終わった後については、シミュレーションの結果をもとに土砂量を推定することを考えております。2回目が終わった以降については、通砂等の絡みもあるんですけども、また測量で状況を確認していきたいというふうに考えております。

A 委員

ありがとうございました。

できれば、その都度のデータなどを関係団体のほうにもお示しをいただければというふうに、要望しておきたいと思います。

座 長

それ以外にご意見、ご質問等ございますか。

どうぞ。

B 委員

B 委員です。

まず自己紹介から、私のこれまでの排砂に対する認識を申し上げます。

実は私、黒部市の生地という海岸に住んでおりまして、平成3年、市議会議員になったときに突然排砂が行われました。そのときのことを非常に覚えておりまして、以後、排砂にはかなり関心を持ってきたんですが、今回、昨年排砂できなかったということで、残念ながらたくさんの量を出すことになるんですが、まず1つは、この資料説明でちょっとわかりにくかったので再確認ですが、昨年の分は別にして、一昨年の分もたまっています。この土砂の変質対策は十分なされているのかどうか。大変なものを流されると困りますので、その辺のことがなされないと、排砂されると大きな影響が内水面、海面ともに受けると考えられますので1点。

それから、おっしゃった複数回を考えているということは、あくまでも2回ということが複数回なのか、条件を整えばさらにやるということなのか。今回から $250\text{ m}^3/\text{s}$ と出ました。私から言わせますと遅いなど。これくらいの量だったらもう前からでもできたんですよ。そういうことが大切だと思うんですが、これは来年も、今年まだ終わっていませんが、 $250\text{ m}^3/\text{s}$ でやれるという前提で今年は計画されているのかどうかお伺いします。

座 長

事務局、どうぞ。

事務局

ありがとうございます。

まず昨年度中止になったことによる変質についてなんですけども、これについては、昨年中止になって、8月までが排砂期間になるんですが、それを終えた9月1日、2日で土砂変質進行抑制策というものをやっております。これは、全部空にするわけではなく、少し高い水位の中で新しい空気を湖底に流して入れかえていくものなんですけども、この時点でも環境調査等をやっております。この調査結果も評価委員会等でご審議頂き、大きな変化は見られないというようなことで評価をいただいております。また、先ほどのボーリングの話で、できれば本当は宇奈月ダムについてはボーリングの調査も実施したかったところなんですけども、ダム湖に台船を浮かべてボーリング調査を実施するのですが、なかなか今年については水が多くてできなかったというところで、ここの部分については調査結果をお示しすることはできないんですけども、それ以外についての排砂期間後、今年の9月の時点での調査結果というのは大きな変化はなかったのかなというふうに考えております。

あと、排砂について2回ということなんですけども、ちょっと今回の資料にはつけていないんですけども、あくまで排砂ということに限って言うと、今回、2回排砂を実施すれば、あと3回、4回以降やったとしても、大きな土砂移動は見込めないというような計算結果も出ています。それで今回、効率的な排砂、また下流への環境負荷等を考えたときには、今回2回でというようなことで考えております。これも当然、今ここに書いてある出し平ダムで $250\text{ m}^3/\text{s}$ という条件が整理された上で排砂を行っていくということになります。

それと、いわゆる排砂の後の通砂になりますが、これについては資料-1の3ページをご覧くださいませるか。従来であれば連携排砂期間、6月から8月の間の最初の洪水をもって行うことを排砂としており、それ以降については通砂ということで進めていたんですが、今回、排砂については2回、通砂については、例えば排砂が2回終わった後、ここの通砂の基準に至れば行っていくというような形になります。ですので、排砂については今、多くても2回というような、条件がそろえば2回というようなことで考えているところであります。

また、 $250\text{ m}^3/\text{s}$ というのは、従来、ちょっとこれ、横線で消しちゃって見づらくな

っているんですけども、出し平ダム流入量については、同じく資料－１の２ページの（１）の時期、一番左上のところに書いてありますけども、そこの「・」２つ目、「但し、上記期間のうち、融雪や梅雨等により流量の多い時期に限り、出し平ダム流入量が $250\text{ m}^3/\text{s}$ に達した場合においても実施する」というような文言が記載されているところであります。これを今回使って、今回に限りという形になりますが、排砂の基準としたいというふうに考えております。

以上です。

座 長

どうぞ。

B 委員

あわせて、宇奈月ダムのことに関連して申し上げますけど、宇奈月ダムが完成した折、私はその場で質問したことがあります。いずれは出し平ダムから流れてくる土砂が宇奈月ダムを通過して下へ流れることになるだろうと。その場合、まずは完成した宇奈月ダムの河床の安定が必要ですねと。当面の間は多分出ないだろうというふうに私も話をしていました。誰とは申しませんが、そのときの国土交通省の関係者は、１０年くらいはその状態が続くと。ダムが完成して１０年以降ぐらいになってくると、出し平ダムと両方の土砂を流すことになる可能性がありますという話をしておられたのを私、記憶しております。

実際にはそれがこのデータでいくと遅れるということになるんですが、宇奈月ダムのたった土砂が流れていないという保証はないのではないかなと私は思うんですね。このあたりは、流域の方々を含めて関係者はなかなか認識が捉えていないと。もっと言えば、双方の思いが一致していないなと私は思うんですね。このあたりはしっかりと明確に、実際のところ、宇奈月ダムの土砂は流れていないですよと本当に言えるのかどうか、私は非常に疑問を感じます。

したがって、率直に連携排砂の中では、文字どおり連携排砂であって、単に出し平ダムだけから出てくる土砂ではなくて、出し平ダムと宇奈月ダム、両方の土砂が出て連携排砂になっているということであるかどうか、それをはっきり明言すべきだと私は思うんですね。

それと、これは極論かもしれませんが。場合によっては、宇奈月ダムは一般の方が観光で行ける地点ですから、日常的に何らかの方法で、この宇奈月ダムだけは土砂を浚渫する方法はないのかどうか、こういう検討だって私は必要ではないかと思うんですが、いかがで

しょうか。

座 長

以上について、事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

まず、宇奈月ダムからの土砂流出の件についてなんですけども、これについては、前回、第43回の土砂管理協議会で、関係団体からの意見と対応についての中で、実は私どもについても、今回、宇奈月ダムからも土砂が出ていくと、流出していくというような計算結果を得ているものですから、これについても自然流下状態となって堆積土砂が排出されることを排砂として認識していくというようなことを回答といいましょうか、対応案に記載させてもらったところであります。

計算結果もそうですし、平成28年度についても、26万 m^3 たまっているうちの20万 m^3 が流出していたというような状況もありました。それらも踏まえて、私どももこのような認識を今しているところであります。

それと、浚渫の件なんですけども、宇奈月ダムについては、堆砂の対策についてはいろんな検討が当時されていたところなんですけども、流域が非常に急峻で土砂が出やすい状況になっている、大量に土砂が出てくるといふようなところからすると、今ここでやっている排砂ゲートを用いた排砂の方法、これが一番効率的ではないかといふようなことで今このような排砂方法をとっているところであります。

ただ、今ほどご指摘のいただいた点について、浚渫というのはやはりなかなか、深いところもありますし、例えばその土砂を今度どういうふうにとってどこで処分するのかといふようなこと、これもまた、例えばダンプであれば、ダンプ1台、普通であれば5 m^3 ぐらいしか運べない。それを運び出そうとすると、またそれなりに環境負荷がかかってくることも考えていかなければいけないということになると、検討していくべき事項であるとも考えますが、近々にすぐ対応していくということにはなかなか、ちょっとクリアすべき条件が多いのではないかなといふふうに考えております。

B委員

いろいろ思いがあるんですが、もう1点聞きます。

今回、いつだったか、170万 m^3 流したときがありましたね。それに続いて160万 m^3 ですから大変大きいです。

そこで、海面ですね。海岸地帯の調査する地点がもう少し広がるべきではないかという気がするんですが、このあたりの検討はなされたのかどうかお伺いします。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

調査地点については、今ほどお示ししているところは、前回排砂評価委員会で議論いただいて承諾いただいているところで、基本的にはこの方向で進めていこうかなというふうには考えているところなんですけども、例えば漁業団体からもいろいろご意見を頂戴しております。そこを全て反映した計画かというのと、そうっていないところもありますので、これについてはまた今後、関係機関と調整して検討していきたいと思いますし、また関係機関の皆様からいろいろご指導もいただきたいなというふうに思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

座 長

よろしいでしょうか。

B 委員

一応いいです。

座 長

それでは、それ以外に何かございますでしょうか。

どうぞ。

C 委員

資料－６のほうでまた、そのときにとっていたんですが、今、B委員あるいはA委員からもありましたとおり、排砂に関して今回非常に多いということの中で、後ほど関係団体の意見等々がまた話されるのかなと思っておりますが、ポイント的に、今回、漁業団体のほうは排砂に対して非常に危機感を持っておいでになっております。そこらあたりは本当にこのままの流れでいいのかなということが１点ありますね。

それと、先ほどB委員から出ました、今後５年、１０年の長いスパンでこのままずっと排砂していいのかということ。すなわち、立ちどまることも必要ではないかと。これはやっていかねばならない点が１つあるんですが、大胆な方向転換、ご存じのように、富山県は自然の生けすということと世界で最も美しい湾クラブ、いろんな形の中で、この自然環境を未来永劫守るとした観点から、今までのそういった排砂方法そのものを、やはり短期

では無理だと思っておりますが、新たな排砂方式、例えば先ほど出た、コストはかかるかもしれませんが、ダムから砂をとるというような新たな手法も中長期のスパンで考えていくべきではないかということに関して、その２点についてお聞かせ願えればというふうに思っております。

座 長

事務局、いかがですか。

事務局

確かに、今回、関係機関へ説明に上がったときに、いろんなご意見をまた頂戴しております。また、後ほども出てきますけれども、要望書という形でもご意見が出てきております。

そのような中で、この流れでいいのかということについてなんですが、私たちについては、今ここで提案させていただいている排砂方法、出し平ダム、宇奈月ダムの連携排砂という形になっておりますが、黒部川の流域の特性、土砂流出形態、また出てくる土砂量を考えたときに、今の方法がいいのではないかと考えています。

あと、方法の議論、ほかにもいろんな議論が出てくるかと思いますが、ただ、いろいろご意見を頂戴しておりますので、今後とも関係市町も含めて専門家のご意見を伺いながら、関係者に対して丁寧にもたわかりやすい説明を行っていきたいと考えております。

立ちどまって方向転換をというお話もいただいたわけですが、今ほども申しましたとおりで、排砂の方法ということについては、従来の検討の中で、このゲートを使って、黒部川の宇奈月ダム、出し平ダムの排砂についてはこの方法がいいのではないかとすることで進めているところなんですけども、ただ、いろんな意見がある中で、この件についてもやはり、長期的にというご意見でしたが、至近ではなかなか難しいと思います。その中で、関係する皆様、関係団体・関係機関等々、またお話を続けていって、よりよい方向を見出していければというふうに考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

C 委員

ぜひ中長期で必要なのではないかなという、近年、確かに海水温が上がる、あるいは自然環境の影響で、この排砂イコール漁業関係に直接影響というのが見えないところがあるんですが、でも、振り返ること、間違いなくボディーブロー的にきいてきているのも事実なので、これをずっとというよりも、やっぱりどこかの時点で大きく方向転換というのも選択肢の１つとして、さまざまな角度から検討するときに今ではないかなというような気

がします。

そういった漁業振興もしかりなんですが、繰り返しになりますが、やはり自然環境という観点からもぜひ積極的に取り組んでいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

A 委員

今ほどのC委員さんの関連なんですが、もう二十数回のこの排砂を続けてこられて、特に去年のアクシデントもあって、今年は膨大な排砂の量になるということでありまふ。

こういう状況になりますと、やはり今までどおりのやり方でいいのかと私も思ひます。特に今回のような一定量をはるかに超えるような場合は、この3カ月間ということに本当にこだわらなければならないのか。もう少しこの期間を見直す、あるいは回数も少し見直すことも含めた対応というものも、今ほどおっしゃった長期的な観点からも考えていく、そういう時期に来ておるのではないかなというふうに思ひます。

そういったこともぜひ真剣に議論をしていただければというふうに思ひます。

座 長

それ以外、ご意見、ご質問等お願ひします。

どうぞ。

D 委員

D委員でございます。今回初めて出させていただきますが、1点ちょっと確認とありますかお伺ひしたいのは、今年度行われる予定である宇奈月ダムの貯水池内のボーリングなんですが、先ほど5月はなかなか状況が悪くてできなかったということなんですが、今、再検討中というふうに先ほどおっしゃいましたけども、現時点で排砂前に何らかの代替の調査などをやるようなことはお考えなのか、1点確認をしたいと思ひます。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

排砂の期間に入っていくという状況もあるわけなんですけども、何かできるようなことがないのか、今やっていたのはダム湖に船を浮かべてそこでボーリングをとというようなことを検討したんですけども、それを使わなくていいような方法、例えば宇奈月ダムのダム湖には湖面橋という橋がかかっておりますけども、その湖面橋から何か調査することができないかというような検討をしたいなと思ひています。

これが本当にできるかどうかというのは、まだ中止を決めたばかりですので、ちょっとどうなるかわかりませんが、一応そのような旨で、何かできることがないか、これは引き続き検討していきたいというふうに考えております。

D 委員

ありがとうございます。

座 長

それでは、それ以外に何かございますでしょうか。

〔質疑なし〕

座 長

よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、議題の 6 に移りたいと思います。

(6) 平成30年連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの
意見と対応について

座 長

それでは、ただいまの報告も含めまして、これまでの説明につきまして何かご意見、ご質問等お願いします。

どうぞ。

C委員

実施計画についての関係団体等の意見の3ページでありますように、海面漁業関係者の文言で、対応の現状として言われた「真摯に受けとめる」という文言と「関係機関と相談しながら団体の皆様方と協議の上進めてまいりたい」。ぜひしっかりと合意形成が得られる形で進めていただきたいというふうに思っています。

先ほど述べたように、今回、私がこうして首長という立場になっても、漁業関係者は本当に危機感を持っておいでになります。それに対しては本当に真摯に受けとめないと、漁業関係者のみならず、先ほど私も申し上げました、富山県の景観や自然環境を守るという視点からもやっぱり考えていかねばならない大きな問題だと思っておりますので、ぜひ排砂システムがそのまま今までのことを踏襲することなく、繰り返しにはなりますけども、さまざまな観点から真摯に受けとめていただきながら、あらゆる角度での排砂、あるいは排砂をなくすための検討もしっかり行っていただければというふうに思っておりますので、強く要望させていただきます。

座 長

事務局、何かございますか。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

今ほどいただいたご意見はそのとおりでございまして、私ども、先ほど申し上げましたとおり、引き続きよりよい、より自然に近い排砂というか、総合土砂管理を目指してまいりたいというふうに考えております。漁業関係者の皆様も含めまして、皆様の同意を得られるように進めていきたいというふうに考えております。

先ほどご意見ありました6月から8月といったような期間につきましても、これまでも皆様のご意見に基づいてこういった形で進めさせていただいているところではございます

けれども、繰り返しになりますけれども、今後もより自然に近い形での土砂管理が実現できるよう我々も努力してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたしますします。

C 委員

今の排砂、通砂はそれでいいので、もう 1 つ言っている排砂、通砂以外の方法も検討していただけないかということに関してはどうなんですか。

事務局

今申し上げた総合土砂管理という形は必ずしも排砂だけを指しているものではございません。要は上流で土砂が生産され、それが下流、海に供給されないと、それこそ今の富山湾という形も維持できないということになりますので、いろんな形を含めまして、よりよい、より自然に近い形での総合土砂管理というものが実現できるように、我々も引き続き検討してまいりたいというふうに考えております。

座 長

どうぞ。

B 委員

今ほど述べられているとおり、より自然に近い形での排砂と。これは誰もが望むところでありまして、我々も黒部川流域に住んでいる者としては、もちろん流域の生活を守る、そしてまた黒部川そのものの自然環境を保全するということが基本になればいけないと思うわけではありますが、1 点非常に気になりますのは、魚津漁協からそういうご意見が出たということ。これにつきましては、黒部川の排砂あるいは通砂がどのくらいの範囲まで影響が出ているのかというのははっきりしないわけで、魚津漁協から出たということは、ある意味では、魚津の関係者は黒部川の排砂がここまで影響しているというご自身の認識があるのではないかと思うんですね。

そういう意味でも私は、今回のように大量を排砂すると。実際、一定の条件が来て排砂した場合に、やっぱりそここのところの調査も一応含めていくべきではないかと。その結果どうであるかということは別にして、そのような努力もしていくことが必要ではないかというふうに思うんですが、再度お伺いしたいなと思います。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

魚津漁協さんから、具体的には深海調査ということで要望があったという中で、これについては富山県農林水産部さんからも同じような要望があったところであります。

今回、要望の中で、800mより深い位置での、深海調査であることから、実際には土砂をとること自体もなかなか容易にはできないことなのかなと思っているんですけども、ただ、そうはいつでも、いろいろ要望を受けている中で、また現在、漁業関係者の方も含めて関係機関と実施方法などについて相談をさせていただいているところです。

実際に漁協さんなりからまた協力いただかなければいけない部分はあるかと思えますし、そもそもどんな方法がいいのか、何ができるのかというようなことを考えていかなきゃいけない。これについては私も今、知見を持ち合わせておりません。これについても、その道のプロと申しましょうか、関係する方からまたご意見をいただく中で進めているところであります。

よろしく願いいたします。

B 委員

あわせて。

座 長

どうぞ。

B 委員

農業関係者についてですが、黒東は別にして、うちは黒西なものですから、黒部川西ということで、黒西の合口用水の問題について触れると、これは非常に農業者も、これだけ毎年排砂が続くと、もう心構えができていますね。したがって、あらかじめ黒部市も含めて告知しますので、排砂の期間というのはそんなだらだと長くないわけですから、十分そこを配慮しながら協力していると。言いかえれば農業者も努力しているということをはしっかり認めていただいて、そのあたりは関電さんも国土交通省さんも、農業者にはある意味では敬意を表してほしいなと思います。

したがって、農業関係者からはほとんど苦情が出ないんですよ。それはあらかじめ知っていて、すぐにやるからですね。その間は、ある意味では火災とかも含めて非常に守っておりますから、そのあたりが報告にあまりないので気になっておりました。

あわせて、先ほど、今年は多くて、排砂を複数回というのは何回ですかと聞きますと、2回と言いました。確かに、河川にいる魚のことを考えると、たまたま条件が整ったから

流しますなんて言っていると、逆に生態系に大変な変化を与えるので、今ほど朝日の町長も言われましたけど、やっぱりできることは何なのかと。出し平ダムよりも宇奈月ダムはもっと下に近いので、しかも人が十分入れるところですから、そのところについてはダムにたまった土砂はこれから増えてくるわけで、十分検討願って、この出し平ダムにたまった土砂に対しての対策は早めにしっかり考え直してほしいなというふうに思うところがあります。

以上です。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

農業団体の皆さんについては、本当にありがたいと思います。このような中で、今の状況に甘んじることなく、やはり今までつないできたことを丁寧に受けとめて、ちゃんと問題意識を持って、状況をよく判断する中で進めていきたいと思っておりますので、またよろしく願います。

あと、先ほど2回というような排砂の回数の中で、2回に決めたのは、下流の環境への負荷というようなことを考えてこのような回数を設定しております。

例えば宇奈月ダム下流の河道区間について、状況がどのように変化していくのか、こちら辺もよく把握する中で、また関係する皆さんからの意見も十分伺う中で対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

座 長

それ以外、ご意見、ご質問等ございますか。

どうぞ。

D 委員

先ほど私どものほうから要望させていただいたことのご紹介をいただきましたけども、漁業者の方々は本当に今回、排砂量が多いので非常に不安に思っているということでございまして、3月19日に黒部河川事務所長さんと関西電力の北陸支社長さんに対し、漁業者の不安が払拭されるようにということで、先ほどご紹介いただいた3点について申し入れを行ったところでございます。

ちょっとお伺いしたいんですが、その後、今日に至るまで、私どもの要望を受けて具体

的にこういった対応、こんなことをしたということがあればちょっと教えていただきたいんですが。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

今ほどの件につきましてですが、排砂実施機関としましては、いただきました要望事項について検討を進めており、また丁寧に対応していきたいというふうに考えております。

黒部川の連携排砂に関する必要な環境調査については、排砂評価委員会において調査範囲、調査項目、解析評価を含めて、これまでも丁寧に評価いただいているところであります。

また、富山県農林水産部さんからの要望書を受けまして、これまでの調査内容を確認して、新たに調査が必要な範囲や項目を確認した上で、環境調査を実施する意向で海面漁業関係団体、排砂評価委員会へ諮ってまいりたいというふうに考えております。

また、ちょっと繰り返しになりますが、水深800m以深の深海部分の調査についてですけれども、これまで排砂に伴う調査の実績はなくて、富山県の農林水産部の皆さんにもまたご協力をいただいて、適切な調査方法等についてご相談させていただきたいなというふうに考えております。

また、漁業振興策については、これまでも漁業関係者と意見交換を行っており、今後も引き続きご意見を頂戴しながら丁寧な対応をしてまいりたいというところでありますが、具体的には、富山県漁業協同組合連合会さんへは4回お伺いしまして、今後の進め方などの相談をしてきております。引き続き、また漁業者の意向に対して丁寧な対応を行ってまいりたいと考えております。

また、海面4漁協さんには、4月13日にお集まりいただきまして、黒部河川事務所からの宇奈月ダムから排砂される状況の説明や、振興策に関する意見交換をさせていただきました。その後、各漁協様宛てにどのような振興メニューが考えられるのか検討をお願いしているところであります。また、引き続き漁業者の意向を聞きながら丁寧な対応を行ってまいりたいと考えております。

魚津漁協さんからいただきました黒部河川事務所長宛ての要望書についてですけれども、これについても、5月21日にお会いさせていただきまして意見交換を行いました。引き

続き漁業者の意向に対して丁寧な対応を行ってまいりたいと考えております。

海面漁業の振興策については、富山県水産研究所、また水産漁港課さんとも相談させていただき、漁業者が求めるもので何ができるのか、実現に向けてしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

以上になります。

D 委員

関西電力北陸支社さんのほうは何かおっしゃっていただけることはありますか。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

昨年は猫又地区で資機材を流出させ、連携排砂が中止になり、出し平ダムに大量の土砂が堆積しまして、まずもって皆様にご迷惑とご心配をおかけいたしましたことに対して、改めておわびを申し上げたいと思います。

先ほどご説明もさせていただきましたように、平成30年度の連携排砂に際しましては、これまでと同様に、排砂中、排砂後も適切に環境調査を行いまして、内容が整理でき次第しっかりと皆様にご説明させていただきたいと思います。

漁業への影響が生じた場合につきましても、申し入れ等がございました場合には、その内容を確認させていただきまして、丁寧に対応させていただきたいと考えてございます。

D 委員

ありがとうございます。

今ほどこれまでの取り組みについてのご説明を少しいただきましたけども、改めて前回申し入れをいたしました3点をしっかりとお願いしたいと思います。

1つは、必要な環境調査にしっかりと取り組んでいただきたいということ。データをしっかり示して漁業者の不安を払拭していただきたいということ。今ほどございましたけども、漁業への影響が出た場合には誠意ある対応をしていただきたいということ。また、先ほどちょっと申し上げましたけども、宇奈月ダムのボーリング調査、もし5月にできなかったということであれば、それにかわる調査をしっかりと取り組んでいただきたいということです。

それから2点目が、800m以深の深海漁場のカニかごの漁業がございましたので、その環境調査もしっかりとお願いしたい。

それから３点目は、漁業者からのいろんな漁業振興策などの要望に真摯に対応していただきたいという３点、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。改めてお願ひを申し上げます。

座 長

それ以外、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

〔質疑なし〕

座 長

よろしいでしょうか。

それでは、ご意見、ご質問がないようでございますので、まとめさせていただきます。

まず、議題１の黒部川河口付近海域における植物プランクトンの生物相変化要因調査結果（平成２９年度）につきましては、調査時期の違いが生物相の変化に関係しているのではないかといった考察について説明がありました。

また、議題２の平成３０年度連携排砂計画については、今年度の目標排砂量が約１６５万 m^3 、想定変動範囲が１１２万 m^3 から１６５万 m^3 という説明がございました。

これらに対しまして、連携排砂の期間、回数の見直しや、中長期的にダム湖の浚渫なども選択肢の１つとすべきといったご意見が出されました。

事務局からは、提示した連携排砂を実施しますが、今後、専門家や関係者の意見を聞いていきたい旨、回答がございました。

また、宇奈月ダムからの排砂について質問がありました。

第４３回協議会でも排出したこの結果につきましてお示ししたとおり、排出していると認識している旨、事務局から回答がございました。

次に、議題３の平成３０年度連携排砂に伴う環境調査計画については、ダム堆砂測量について、１回目の排砂後はシミュレーションにて土砂状況を推定し、２回目の排砂後に測量により排砂量を確認するほか、植物プランクトン調査について、定期調査時と排砂時の違いを把握するため、排砂時調査を追加するといった説明がありました。

これに対しまして、宇奈月ダム貯水池内のボーリングの実施について質問があり、何ができるか検討していきたい旨、回答がございました。

また、議題４の平成３０年度大粒径土砂の移動状況調査については、昨年度調査結果を踏まえ、移動実態をより把握できるような取り組みについて説明がありました。

議題５については、第４８回黒部川ダム排砂評価委員会での評価について報告がありま

した。

議題6については、連携排砂に関する関係団体からの意見と対応について報告がございました。

これに対しまして、漁業関係者の方々は危機感を持っており、これらに対して真摯に受けとめ、関係機関と協議の上、合意形成を進めてほしいといった意見が出されまして、これに対しまして事務局より、引き続きより自然に近い形での総合土砂管理を目指していくということ、さらには、漁業組合の皆様のご理解を得るよう努めていきたい旨、回答がございました。

また、魚津漁協の意見、こちらのほうがさらに調査範囲を拡大できないかということでご意見がございました。

これに対しましては、事務局より、水深が800mと深い位置であること、土砂をとることは容易ではありませんが、5月21日に要望等もいただいているところであり、今後、何ができるか検討していきたい旨、回答がございました。

また、農業管理者の努力に対して認識をしてほしい、敬意を表してほしいとのご意見もございました。

また、富山県のほうからは、漁業者への不安の払拭や漁場環境調査など、3項目を求める要望書を先般出しましたが、それに対してどのようにその後具体的に対応したかについてご質問がございました。

これに対しまして事務局からは、まずこの要望書を受けまして、これまでの調査内容を確認し、新たに調査が必要な範囲、項目を確認した上で、環境調査を実施する方向で海面漁業関係団体、排砂評価委員会へ諮りたい旨、回答がございました。

また、2点目に対しましては、先ほどと重なりますが、水深800m以深の深海部分の調査につきましては、これまで排砂に伴う調査の実績はなく、富山県農林水産部にもご協力いただき、適切な調査方法等についてご相談してまいりたい旨、回答がございました。

また、3点目でございますが、漁業振興策につきましては、これまでも漁業関係者と意見交換を行っており、今後も引き続きご意見をいただきながら、丁寧な対応をしてまいりたい旨、回答がございました。

また、関西電力のほうにも同じく富山県からご意見がございまして、これに対しまして、排砂中、排砂後も適切に環境調査を行って説明をしていきたい旨、また漁業へ影響が出た

場合、内容を確認して丁寧に対応していきたい旨、回答がございました。

以上が、本日のまとめでございます。

この案をもちまして、今後、平成30年度の連携排砂等を適切に実施するということがよろしいでしょうか。異議ございませんでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

座 長

それでは、特にご異議がないということを確認させていただきました。

それでは、平成30年度連携排砂計画、平成30年度連携排砂計画に伴う環境調査計画については了承され、連携排砂実施に当たっては、今回出された意見を踏まえて適切に実施するということをまとめとしまして、本日の議事を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行役をお返しします。

4. 閉 会

司 会

長時間にわたりまして熱心なご審議、まことにありがとうございました。

以上をもちまして、第44回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

どうもご苦労さまでした。